

コロナ禍の中、5期目がスタート! 第68代副議長に就任しました



議長席にて



両副市長、市民病院管理者、上下水道局管理者、代表監査委員、教育長らと



副議長室にて

副議長就任において思う事

4月初旬の新型コロナウイルス感染拡大により、気の滅入るような不安を感じる中、多くの方々のご支援をいただき5回目の当選を果たしました。続いて5月11日の臨時議会にて38名の議員による選挙により第68代副議長に選出されました。小川議長の進める議会改革・市政発展の補佐役として福山市議会・議会基本条例に則り、公正・公平でより良い議会運営に努める所存です。

早速12日にはコロナ対策として過去最大の515億円の第1次補正予算案を審議する予算特別委員会の委員長として議事を進行し、市独自の飲食店の支援策や一律10万円の定額給付金の支給等が議決されました。その後も6月議会に向けて連日のように各常任委員会の議案の打ち合わせや、各会派の代表者会議、議会運営委員会等が開催され、6月1日の6月議会の開会を迎えました。

6月議会は「コロナ対策議会」の様相を呈し、多くの議員が一般質問においてコロナ対策について質疑を行い、私も議長席に座り、市長をはじめ教育長や保健所長らとの論戦を采配させていただきました。コロナ対策・第2次補正予算案を審議する予算特別委員会でも委員長を務め、感染拡大第2波への備えの他、中小企業者への事業継続支援策、市民消費の喚起として市独自のプレミアムクーポン券の発行等の予算案が議決されて閉会となりました。副議長としての役割を大過なく果たせたと安堵しています。

7月16日にも臨時議会が招集され、矢継ぎ早にコロナ対策・第3次補正予算案「インフルエンザワクチンの接種費補助」等が議決されました。インフルエンザがコロナの呼び水にならないよう今年からは早めの予防接種をお願いします。なお、喫煙者がコロナウイルスに感染した場合は重症化する率が高いので、これを機会に禁煙に取り組まれる事を強くお勧めします。

さて、副議長になったからと言って慢心してはなりません。ソクラテスは「政治家やその志望者の中には、政治というものは非常に習得が困難であるにもかかわらず、訓練もせず、勉強もせずに突然、勝手に政治の達人になれると考えている者がいる。まことに不思議である」と述べています。この言葉を胸に日々研鑽と努力を重ねる所存です。

編集後記 副議長就任によりますます公務多忙となり、皆様へのご挨拶もおろそかになっておりますが、引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。なお、お名前間違い・転居等による変更、配信不要の方はご一報ください。

大田ゆうすけ事務所 福山市沖野上町3丁目6-33 (大田記念病院東側) 大田ゆうすけホームページ <http://www.kkochan.com/>
 TEL:084-932-7855 FAX:084-921-8801 メール: orion@urban.ne.jp facebookでも情報発信に努めています。

水曜会

第51号

令和2(2020)年7月発行

発行所 福山市議会 水曜会
 住所 〒720-8501 福山市東桜町3番5号
 電話 084-928-1123
 FAX 084-920-1104



水曜会の新メンバー決定

福山市議選は、四月投票が行われ、38人の新しい議員が決まりました。水曜会は、勇退をした2人を除く11人が挑戦し、全員当選を果たしました。当選後、3人の新人議員が入会、14人の最大会派となり、引き続き議事をリードする立場となりました。初心を忘れず、市民の方々の声を市政に反映すべく、しっかりと取り組みます。左記は水曜会のメンバーです。



後列左から：喜田紘平、榊原則男、早川佳行、連石武則、大田祐介、石口智志
 前列左から：小林茂裕、小川眞和、石田実、木村素子、羽田俊介、今岡芳徳、熊谷寿人、五阿彌寛之



水曜会の新役員は以下の通りです
 会長 今岡芳徳
 副会長 榊原則男
 幹事長 連石武則
 副幹事長 石口智志
 会計 喜田紘平

議長に小川眞和議員、副議長に大田祐介議員を選出



福山市議会は5月11日、改選後初の臨時議会を開き、議長に水曜会の小川眞和議員、副議長に大田祐介議員を選出しました。

選出後の所信表明で小川眞和議長は「議会報告会の新たな取り組みや、議会の要望意見が新年度予算編成に十分反映されるよう、政策形成サイクルの確立を目指す」「新型コロナウイルスを巡る課題解決に向けて引き続き、市と連携の強化を図る」事を表明しました。

また、この日は議会選出の市監査委員に、水曜会の榊原則男議員と市民連合の法木昭一議員を充てる選任同意案も可決しました。

新型コロナウイルス対策 本市の独自事業に 総額約12億円

本会議は六月一日開会。一般会計補正予算案など、17議案を賛成多数で可決しました。五月臨時会では、新型コロナウイルスの感染拡大による経済対策に充てるため、市長・市議と副市長ら特別職6人と市立大学の期末手当を減額する条例改正案を、全会一致で可決しました。

六月議会で可決した補正予算(2次分)は、第2波に備えた感染予防対策や、事業者支援としての経済対策、市民消費の喚起対策として飲食や観光振興のためのプレミアムクーポン券の発行など総額で約11億9000万円です。本市独自の事業は、11事業にも及び、市民生活を守るために万全を尽くした予算です。コロナ対策としては、五月の第1弾約5.15億500万円。今回の第2弾に続いて、七月には第

一般質問に水曜会は6人が登壇 枝廣市長を質す

六月議会の一般質問者は、新人全員を含め6人が登壇。質問者は左記の通りです。
 ○連石武則
 ○石口智志
 ○喜田紘平
 ○石田実
 ○木村素子
 ○羽田俊介
 質問内容の詳細は、八月一日の「福山市議会だより」に掲載されます。

3弾も予定されており、水曜会は市民要望に的確に応えるよう求めていきます。市長と市議38人などの期末手当を減額する条例案を可決。新型コロナウイルスの感染拡大による経済対策に充てる為、市長と市議の六月期末手当を20%、副市長・特別職6人と市立大学の六月期末手当を15%減額する条例改正案を全会一致で可決しました。特別職及び市議会議員の六月期末手当の減額総額は、12億48万3909円です。

六月定例市議会

大田ゆうすけ の16年間



初当選から紆余曲折の16年。
多くの方に出会い、いただいた言葉を胸に
奮闘しています。この経験を糧に副議長の
職を全うしたいと思っています。



初当選(当時36歳) 平成16年4月

出馬の動機は芦田川河口堰の開放、キャッチフレーズは「子どもが安心して育つ町づくり」でした。
トップ当選を果たしましたが、5月には母がエベレストで遭難、8月の市長選で父が落選して、一転して逆風にさらされました。
議会で何を提案しても却下、全身に「ヤジ」を浴びる。逆に発奮して「負けまい」と努力しました。
わずか3人の「誠友会」で議会活動のイロハを学びました。

走ろう会の皆さんと「緑町公園リレーマラソン」を企画し開催。
グリーンライン駅伝を9年開催、これが「輛の浦駅伝」に発展し、
市制百周年「ふくやまマラソン・輛の浦コース」を実現させました。
山野町の古民家を借りて、子供の自然体験の拠点としました。

2期目当選(第2位) 平成20年4月

広島大学大学院・社会科学専攻科マネジメント専攻に入学。
昼は議会、夜は大学院という2足のわらじを履き、地方自治や地域政策について学び、修士論文「芦田川河口堰に関する政策研究」を書きあげました。
議会では無所属一人会派に・・・今思えばとても良い経験でした。

経済レポート「祐介の目」の連載を開始しました。
輛の古民家を「輛ノ津ギャラリーありそ楼」としてリニューアル、
輛のひな祭りに合わせ、「きもの日和」を開催しました。
東日本大震災の発災後ただちに復興支援に取り組み、陸前高田市に中学生の学用品やキャンピングカーを届けました。
姉妹都市タクロバンとの交流開始、歩兵第41連隊の聞き取り調査を始めました。



3期目当選(第3位) 平成24年4月

最大会派「水曜会」に入会、民生福祉委員長に就任しました。
この期より本会議に一問一答方式が取り入れられ、以後毎議会一般質問を行うよう努力しました。

富士山頂上よりスキー滑降、東日本大震災が風化しないよう陸前高田市の市長を招いて講演会を開催、第1回輛の浦駅伝の開催を支援、超大型台風が襲われた姉妹都市・タクロバン市の支援活動を行いました。
歩兵第41連隊の足跡を訪ねて、著書「永遠の四一」を上梓、備後護国神社護持会を立ち上げ、福山市遺族会と共催で「みたま祭」を開催しました。
市議会スポーツ振興議員連盟の幹事長となり、JOCとパートナー都市協定を結びました。

4期目当選(第2位) 平成28年4月

都市整備特別委員長に就任しました。
水曜会の副会長・企業会計決算委員長・建設水道委員長に就任。
メキシコ・オリンピックチームの事前合宿受け入れに尽力、グリーンラインの自動二輪交通規制解除に貢献しました。

備後ワイン・リキュール特区を活用して「山野峡大田ワイナリー」を設立、山野峡ワインの醸造により6次産業に取り組み、地方創生の政策実験をスタートさせました。
福山山岳会の会長として創立100周年記念行事を開催、新総合体育館「エフピコアリーナふくやま」のスポーツクライミング壁や、かわまち広場(特にスケボーパーク)整備に尽力しました。
学生インターンシップを4年間で8組16人受け入れました。



5期目当選(第8位) 令和2年4月

この3月議会でも・・・全力投球しました!
新型コロナウイルスに翻弄された選挙戦、従来より大きく得票を減らしましたが、すべては自分の責任と反省しています。
しかし、選挙戦で訴えてきた河口堰の代替水源の確保による堰開放への道筋を付けたいと考えています。
自然との共生こそがwithコロナ、afterコロナ時代の必須事項となるはずです。

経験を力に。

皆様からの更なる叱咤激励をお願いいたします。

